

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2021年11月2日放送分・行人塚／古城】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 「奥州街道を江戸へ！」シリーズの旅を終えた私と木村さん。新しい旅を始める前にもう1本、訪ねておきたい大事な辻標があります。
- 奥州街道は、現在の河原町商店街の奥を右折したところで仙台城下を出るという話をしました（2021年9月7日放送分参照）。右折せず、後付けされた道をまっすぐ東進するとどこへ行くのか？もう分かりますよね。このシリーズで何度も話題になった、政宗晩年の第2の城「若林城」の正面に出るのです。
- 歩きはじめてまもなく、前方にJRの線路が見えてきます。高架上を東北新幹線が行き交う様子も眺められますが、昔の旅人はどんなに遠くても徒步ですからねえ…。いや～大変だ。
- それはさておき、線路の少し手前。右側に古城神社という小さなお社が。この神社は「行人塚（ぎょうにんづか）」という、広瀬川の氾濫を鎮めるため人柱になった山伏の伝説がある塚の上に建てられたようです。
- 江戸時代中頃の石碑も残っていますが、木村さんは「元々は古墳ではないか」と考えているようです。

- さらに東に向かい、見えてきた踏切の名前は「行人塚踏切」。はっきりと看板に書かれています。住所からは消えてしまった行人塚の地名が、踏切に残っていました。踏切を越えてまもなくの古城コミュニティ・センター敷地内に今回の辻標「行人塚／古城」がありました。このまままっすぐ東に進むと、かつての若林城にたどり着きます。中にはそう簡単には入れません！今は、宮城刑務所ですから。
- 1つの領国に1つの城しか認めませんでした。政宗が晩年に建てた若林城は、ルール違反ということになります。だから、当初は絵図にも一切描かれませんでしたし、政宗は文書に残さない形の遺言で、死後の取り壊しを命じています。それでも仙台藩は、8年間しか使われなかつた「もったいない」城を仙台城の二の丸に一部移築したほか、取り壊した跡地も薬草畑や火薬庫に再利用したことが絵図から確認できるそうです。
- 「若林城はまだまだ面白い！」興奮した様子の木村さんのお話は、日が暮れてもしばらく続いたのでした…。
- 〈文・佐々木淳吾〉

